


SAの今月のお勧め 分間アップデート

アップデートはどこで確認できますか？

 #ちよっぴりDD

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/tag/週刊aws/>

<https://aws.amazon.com/jp/new/>



aws お問い合わせ サポート アカウント AWS アカウントを作成

製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマー支援 イベント さらに詳しく見る

ブログホーム カテゴリ エディション Search Blogs

Amazon Web Services ブログ

Tag: 週刊AWS

週刊AWS - 2021/2/15週
by Masato Kobayashi | on 22 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。先週のアップデートを振り返ってみたいと思います。

Read More

週刊AWS - 2021/2/8週
by Akira Shimosako | on 15 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。エンジニアのための施設AWS Loft Tokyoは現在休館中ですが、Loftで実施していた対面式の技術相談コーナーであるAsk an Expertが、現在はオンラインで参加いただけるようになっています。そして、今週初の試みとしては2/19(金)にDB、分析、コンテナのエキスパートが終日相談に応じるSpecial Expert Dayを実施する事になりました。私は13時、14時、15時台に当番しておりますので、データレイクやDWH on クラウドで相談したいことがありましたら、ぜひこちらの案内に従ってご参加ください。(なお利用にはAWS Loft Appが必要ですが、まだ登録されていない場合、利用登録には約5営業日程度かかりますのでご注意ください) それでは、今週の主なアップデートについて振り返っていきましょう。

Read More

週刊AWS - 2021/2/1週
by Masato Kobayashi | on 08 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。秋ぐらいに健康作りのために運動を始めた、というポストをしました。自分自身の今までの傾向としては、2ヶ月ぐらいでブームが過ぎ去って飽きてしまうパターンが多かったのですが、今回はなんとか継続することができています。今回継続できている理由は、モニタリングをしっかりやっていることなのか、となんとなく思っています。Bluetoothでデータを吸い上げアプリで可視化できる体組成計と血圧計を購入し、毎日データを取るようになりました。また、フィットネストラッカーを利用して運動量をトラッキングしています。これらによって日々の状況を把握し、運動量が不足していそうなら素早くアクションをとることができます。平日からのモニタリングと可視化が大事なんだな、という実感を得ている今日この頃です。

Read More

週刊AWS - 2021/1/25週
by Akira Shimosako | on 01 FEB 2021 | in General | Permalink | Share

みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。すっかり寒くなりましたね。私の場合、寒いと空気が乾燥するので加湿器を動かす機会が少なくなっていました。



aws お問い合わせ サポート 日本語 アカウント 今すぐ無料サインアップ

製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマー支援 イベント さらに詳しく見る

AWS の最新情報

AWS は、お客様が最新のテクノロジーを利用して実験し、より迅速に革新できるように、新しい機能を絶えず追加しています。最新情報記事は、AWS がそれをどのように実現しているかをお伝えするもので、AWS のすべてのサービス、機能、およびリージョンの拡大発表がリリースされるたびに、それらの概要を提供します。

AWS 最新のイノベーションについては、以下のページをご覧ください。

RSS フィードで購読する 2021 年の発表をすべて表示する

目次の発表 | 最近の動画 | すべての発表 | その他の資料

aws INNOVATE AI / 機械学習の最新情報や導入事例、ベストプラクティスを AWS のエキスパートが解説

2/24 (水) オンラインで無料開催！相談コーナーもご用意。 [詳細を見る](#)

今週注目の発表

AMAZON CLOUDFRONT SECURITY SAVINGS BUNDLE のご紹介	AMAZON VIRTUAL PRIVATE CLOUD (VPC) で ELASTIC IP アドレスのリバース DNS のカスタマイズが可能に	AMAZON S3 で AWS PRIVATELINK のサポートを開始
本日、Amazon CloudFront Security Savings Bundle を発表します。これは、1 年間にわたって月間最低使用量を確保いただくことと引き換えに、CloudFront の請求額を最大 30% 節約できる柔軟なセルフサービスの料金プランです。	Amazon Virtual Private Cloud (VPC) では、Elastic IP (EIP) アドレスのリバースドメインネームシステム (DNS) ルックアップを簡単にセットアップして、Eメールの配信性を向上させることができます。	Amazon S3 は AWS PrivateLink のサポートの提供を開始し、仮想プライベートネットワーク内のプライベートエンドポイントを介して S3 に直接アクセスできるようになりました。
2021 年 2 月 5 日	2021 年 2 月 3 日	2021 年 2 月 2 日



Amazon Linux 2023 のご紹介

投稿日: Mar 15, 2023

本日、[Amazon Linux 2023 \(AL2023\)](#) の一般提供についてお知らせします。これは、クラウドアプリケーションの開発と実行のために、安全で安定した高性能な環境を提供するように設計された、AWS 向けの新しい Linux ベースのオペレーティングシステムです。AL2023 は、さまざまな AWS サービスや開発ツールとのシームレスな統合を実現し、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) の Graviton ベースのインスタンスと AWS サポートのパフォーマンスを最適化します。追加のライセンス料は発生しません。AL2023 以降、2 年ごとに新しい Amazon Linux のメジャーリリースが提供される予定です。このケイデンスにより、より予測可能なリリースサイクルと最長 5 年間のサポートが提供され、アップグレードの計画が容易になります。

AL2023 は、Amazon Linux 2 (AL2) に対していくつかの改善を施しています。例えば、AL2023 は、デフォルトでセキュリティに対応するアプローチを採用しています。セキュリティポリシーの事前設定、SELinux のパーミッシブモードと IMDSv2 のデフォルト有効化、カーネルライブパッチを利用できるようにするなど、セキュリティ体制の向上に役立ちます。バージョン管理されたリポジトリによる確定的なアップグレードでは、Amazon Linux パッケージリポジトリの特定のバージョンにロックして、更新をいつどのように適用するかを制御できるようにします。この機能により、環境全体でパッケージバージョンと更新の一貫性を確保できるため、運用上のベストプラクティスをより効率的に遵守できます。詳細な比較については、[Amazon Linux 2 と Amazon Linux 2023 の比較](#)を参照してください。

Amazon Linux 2023 は通常、AWS GovCloud (米国) リージョンと中国リージョンを含むすべての AWS リージョンでご利用いただけます。Amazon Linux 2023 に関する詳細については、[AWS のドキュメント](#)を参照してください。

参考ページ

「Amazon Linux 2023 のご紹介」
<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2023/03/amazon-linux-2023/>

AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました

投稿日: Mar 14, 2023

AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました。これにより、お客様はサードパーティのデータファイルを簡単に検索、サブスクライブ、使用できるようになり、インサイトを得るまでの時間の短縮、ストレージコストの最適化、データライセンス管理の簡素化などが実現します。この機能は、データコピーを作成または管理することなく、データプロバイダーの Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットから直接サードパーティのデータファイルを使用したいサブスクライバーや、Amazon S3 バケットでホストされているデータへのインプレースアクセスを提供したいデータプロバイダーを対象としています。

サブスクライバーは、データプロバイダーが維持しているものと同じ S3 オブジェクトにアクセスします。そのため、エンジニアリングや運用上の追加作業を行うことなく、利用可能な最新のデータを使用できます。データプロバイダーは、既存の S3 バケットの上に AWS Data Exchange for Amazon S3 を簡単にセットアップして、S3 バケット全体または特定のプレフィックスやオブジェクトへの直接アクセスを共有できます。これらの S3 オブジェクトは、AWS Key Management Service に保存されている顧客管理キーまたは Amazon S3 管理キーを使用してサーバー側で暗号化できます。設定後、サブスクリプション、使用権限、請求、支払いについては、AWS Data Exchange で自動的に管理されます。

AWS Data Exchange for Amazon S3 は、現在、AWS Data Exchange が利用可能なすべての AWS リージョンでご利用いただけます。

開始するには、[AWS Data Exchange](#) にアクセスして、AWS Data Exchange for Amazon S3 のデータ製品を見つけてください。[AWS Data Exchange for Amazon S3 製品ページ](#)にアクセスして、お客様がコピーを作成または管理することなく、数回クリックするだけでサードパーティのデータファイルを検索、サブスクライブ、使用できる方法について詳しく学んでください。

参考ページ

「AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2023/03/aws-data-exchange-amazon-s3/>

AWS Application Composer の一般提供を開始

投稿日: Mar 7, 2023

AWS Application Composer は、サーバーレスアプリケーションのアーキテクチャ設計、設定、構築を簡素化、加速します。AWS Application Composer のブラウザベースのビジュアルキャンバスを使用すれば、AWS サービスをドラッグアンドドロップしてアプリケーションのアーキテクチャへ接続できます。AWS Application Composer では、各サービスの統合設定が完了した、デプロイの準備ができている Infrastructure as Code (IaC) の定義が維持されるため、ユーザーは構築に集中できます。

AWS Application Composer を使用すると、新しいアーキテクチャをゼロから開始したり、既存の AWS CloudFormation または AWS サーバーレスアプリケーションモデル (SAM) テンプレートをインポートしたりできます。AWS のサービスを追加して接続すると、AWS Application Composer がすぐにデプロイできるプロジェクトを生成し、アプリケーションアーキテクチャを視覚的に表現して IaC と同期させます。この一般公開リリースでは、Amazon Simple Queue Service (SQS) との直接統合など、Amazon API Gateway のリソースサポートが改善され、ユーザーインターフェイスの改善、インタラクションの改善、10 言語でのローカリゼーションが追加されています。

AWS Application Composer は現在、米国東部 (オハイオ)、米国東部 (バージニア北部)、米国西部 (オレゴン)、アジアパシフィック (シンガポール)、アジアパシフィック (シドニー)、アジアパシフィック (東京)、欧州 (フランクフルト)、欧州 (アイルランド)、欧州 (ストックホルム) の AWS リージョンで追加料金なしで一般提供されています。

使用を開始するには、AWS Application Composer の [製品ページ](#) をご覧ください。詳細については、ローンチに関する [ブログ投稿](#) をご覧ください。

参考ページ

「AWS Application Composer の一般提供を開始」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2023/03/aws-application-composer-generally-available/>

Amazon GuardDuty RDS Protection for Amazon Aurora is now generally available

Posted On: Mar 16, 2023

[Amazon GuardDuty](#) broadens threat detection coverage to help you protect your data residing in [Amazon Aurora](#) databases. GuardDuty RDS Protection is designed to profile and monitor access activity to Aurora databases in your AWS account without impacting database performance. Using tailored machine learning models and integrated threat intelligence, GuardDuty can detect potential threats such as high severity brute force attacks, suspicious logins, and access by known threat actors.

Current GuardDuty users, including those in the public preview, can activate RDS protection with a single step in the GuardDuty console and, leveraging AWS Organizations, across all accounts in an organization. If you're new to GuardDuty, you will have RDS Protection turned on by default. All GuardDuty users can try RDS Protection at no cost with a 30-day free trial. For a full list of Regions where RDS Protection is available, visit [Region-specific feature availability](#).

Amazon GuardDuty is a threat detection service that continuously monitors for malicious behavior to help protect your AWS resources, including your AWS accounts, access keys, EC2 instances, EKS clusters, data stored in S3, and now Aurora databases. Aurora is a fully managed MySQL and PostgreSQL-compatible relational database built for the cloud as part of the Amazon Relational Database Services (RDS).

To get started:

- Try RDS Protection at no cost for 30 days on the [AWS Free Tier](#)
- Refer to the [GuardDuty RDS Protection documentation](#) to learn about the new finding types available

参考ページ

「Amazon GuardDuty RDS Protection for Amazon Aurora is now generally available」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2023/03/amazon-guardduty-rds-protection-aurora-generally-available/>

第二十九回「アップデート紹介 とちょっぴり Dive Deep すす AWS の時間」

2023年4月27日（木） 16:30 -17:30 オンライン開催（ライブ）

SaaS 編

4/27（木） 16:00～17:30

お申し込みページはこちら

<https://pages.awscloud.com/choppiri-divedeep-seminar-series-reg.html>



© 2023, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.



Thank you!

